

放送 & 芸能

東日本大震災で、地上波やBS、CSのニュース系チャンネルは災害報道に専念した。では、娯楽を提供するチャンネルは何ができるのか？自問自答した末に、「ヒストリーチャンネル」など多くのCSチャンネルを抱える東北新社が出した答えは「笑顔」だった。11日に同チャンネルなどで放送されるドキュメンタリー特番「ニッポンの笑顔～こころの復興を求めて～」の撮影現場、宮城県東松島市を訪ねた。(宮崎美紀子)

笑顔の花



咲かせましょ

①根古地区の仮設住宅の前の田んぼに並べられた笑顔の傘
②笑顔の傘を手に住民たちと交流するアートディレクターの水谷さん

ドキュメンタリー放送「楽しさ届ける」



根古の仮設住宅は四十五世帯、約百人が暮らす。東松島市は津波で千人以上が亡くなった。海側の野蒜地区は家の土台だけが残った平地が広がる。仮設住宅の自治会長・菅井保勝さん(モロ)の自宅もそこにあった。「最初は何もわか

空は明るいのに細かい雪が降り続く二月中旬、宮城県東松島市・根古地区の仮設住宅に、アートディレクター・水谷孝次さん(左)はいた。住民たちの最高の笑顔をおさめた写真を手渡すために。水谷さんは一九九九年から世界中で笑顔の写真とメッセージを集める「メリープロジェクト」を主宰。笑顔の写真は傘に印刷され、それを開くパフォーマンスは北京五輪でも披露された。東北新社は、彼の写真を「ヒストリーチャンネル」などの復興応援CMで使ったのを縁に、震災一年目のドキュメンタリーとして、メリープロジェクトを追うことになった。

「もっと知ってほしい」という思いがあったという。水谷さんが撮った菅井さんの写真は、「今までの自分の顔じゃないと思った」ほど笑っていた。

大友昭子さん(右)は九十年代の義父らを軽トラに押し込んで、津波から逃げた。避難所で義父がこうつぶやいたという。「戦争よっか、ひどいな。戦争なら家あるよ」。「やっぱり(震災のことを)忘れられるのが怖い」と大友さんは悲しそうに話すが、水谷さんが撮った大友さんの写真は、見ている方が幸せになるような笑顔だった。

翌朝、仮設住宅前のあぜ道に何十もの「笑顔」が一緒に咲いた。笑顔がプリントした傘を、仮設住宅や近隣の子供たちが横一列になって開いたのだ。菅井さんたちの笑顔の傘もあった。

あの日を伝える
3・11

水谷さんは言う。「四川大地震、スマトラ沖地震でも写真を撮って、負を乗り越える人間の力を見た。東北でも、人は負けないと確信していた。人は人の笑顔に助けられる。『笑うから幸せ』という幸福論で、笑顔の輪を広げたい」

東北新社は、歴史、映画、ドラマから囲碁将棋までさまざまなチャンネルを持っているが、ジャンルを超えて十一日は、「笑顔」がテーマのこの特番の放送を決めた。

「放送として何かやるべき。では、われわれは何を届けているのか。それはエンターテインメントだった。では、エンターテインメントとは何か。囲碁だろうが映画だろうが、ワクワクや楽しさを届けること。そう考えて、笑顔の特番を作ろうと決めた」と、東北新社映像本部の佐藤弘道編成企画部長は語る。

東松島の他、福島県いわき市、岩手県陸前高田市の人たちの「笑顔」も水谷さんを通じて映し出される。

一時間の特番は、十一日午前六時からの「スーパーノドラマTV」「ザ・シネマ」を皮切りに、「ファミリー劇場」「スター・チャンネル」「クラシカ・ジャパン」「囲碁・将棋チャンネル」「ヒストリーチャンネル」で順次放送される。

震災特番 娯楽チャンネルの選択

東京新聞

水谷さん撮影の笑顔の写真を手にする(左から)自治会長の菅井保勝さん、大友昭子さん、菅井さんの妻・愛子さん=宮城県東松島市で

